

ホットニュース Hot News

◎まったり過ごす図書館時間@渥美

立春といつつ、真冬の寒さが身に沁みる毎日ですね。「省エネしながら、温かく過ごしたいな…」そんな時は、渥美図書館に来てください。読書したり、映画を観たり、ぼーっとしたり、まったりと「自分時間」をお楽しみいただけます。

おすすめのぽかぽかエリアは、絵本の棚がずらりとならぶ「おはなしコーナー」と「セルフワークコーナー」です。おはなしコーナーでは月に3回、おはなし会を開催しています。



セルフワークコーナーでは、“いつでも、どなたでも”参加できる、月替わりの工作が楽しめます。今月は牛乳パックとペットボトルのキャップでコマを作ります。小さなお子さんも簡単に作れて、よく回りますよ～。

寒風にも負けず、渥美図書館は元気に皆さんをお待ちしています！



▲今月の工作はこれ！

オスナの本



古本屋は奇談蒐集家

ユン・ソングン/著 河出書房新社

ユン氏は実在する古書店の店主。古本を探す手数料として依頼主からその本にまつわるエピソードを収集しているのだが…。



くまモンの成功法則

チームくまモン/著 幻冬舎

日本だけでなく世界でも愛されているくまモン。成功の裏には数々の苦労と挑戦があった。これまでの活躍を振り返る一冊。

History Inquiry Club 其の238 歴史探訪クラブ

文化財課(博物館) ☎22-1720
吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
渥美郷土資料館 ☎33-1127



博物館HP



博物館Instagram

大衆に支持されたひな人形・三河土人形

土人形は粘土を型取りし、素焼きをした後、泥絵具で表面を塗った人形で、歴史上の英雄や歌舞伎の役者、武者などがあり、それぞれ特色や個性があります。

三河地域の主な生産地は、現在の碧南市一帯でした。ここは三州瓦の産地として栄えた地域で、良質な粘土を産出し、瓦作りの技術や職人の存在により土人形の産地となりえたのです。この他、西尾・岡崎・豊川・豊橋・田原などでも土人形が作られました。

田原で作られた土人形は、江戸時代後期に渡辺崋山が招へいた大蔵永常が指導にあたったものです。



▲弁慶(勧進帳) 明治～大正期 渥美郷土資料館蔵

永常は、安政6(1859)年に刊行した『広益国産考』の中で、農家の副業として土人形の製造を奨励しています。田原で焼かれた土人形は、多くは無かったものの、実際に使用さ

れたと思われる型などが見つかっています。

この地方のひな祭りの中心として愛された土人形は、明治の中頃から大正時代にかけて徐々に内裏ひな人形に主役の座を譲りますが、安価に手に入る土人形は、庶民の味方として昭和の初め頃まで飾られ続けました。大正・昭和になり、ラジオや映画など娯楽の多様化と、芝居熱の低下、人々の生活レベルの向上などもあり、その姿を消していきました。

今年も渥美郷土資料館では「ひな祭り展」(～3/17まで)、田原市博物館では「ひな人形と初風展」(2/10～4/7まで)を開催します。両会場ともに土人形も飾られます。ぜひ、ご覧ください。

(学芸員 天野敏規)



▲大蔵永常著『広益国産考』(部分)「人形をこしらえる図」安政6(1859)年 田原市博物館蔵